

福島衛生新報

毎月三回発行
定価一部五錢
福島縣平町長崎町五十六
編輯発行 佐藤興全
兼印刷人 佐藤興全
福島縣平町長崎町五十六
發行所 福島衛生新報社
廣告料 一行三十錢
場所指定 十錢増

詮じつめれば消化不良

ダカラ注意は食へもの飲みもの

子供に禁物「寝びえ」

醫學博士 伊藤安次

つゆ時の子供の衛生は、「まづ寝解熱劑を用ひてはならぬ、こと冷えさせないこと」食食物はこれから多い腸チブスなどに魚なら繊維の細いカレー、アヂなど、解熱劑で却つて悪化するマヌなどあつさりしたもの、肉の多い腸チブスはさきむなら挽肉、野菜なら、なるべく氣、發熱、頭痛、食慾減退など筋の少い皮をとつた豆、いも類ではじまつて、熱が毎日變るばホレン草、人参、南瓜等の新りに段々と昇り、數日後には三じいもの、果物は腐り易いバナナ十九度、四十度にもなる。熱性ナ、ビワ、モモ、種のあるブドウ病は一般に食慾がなくなるもの一などは成べく避け、梨とか、だから

嚴禁で

あると共に、總度にならなければ五六度にわけて、なるべく多く流動食か、半流動食を與へるやうにする。この家庭でも麥湯を冷やして用ひるが、あれも酸酵し易いものだから、前日のなどは絶対に使つてはいけない、ことにこれからは腸チブス、バラチブス、赤痢(疫痢)など口からうつる傳染病が多いから口を通するものはきつと二分間はいちから煮沸したものにしてほしい。この時期に萬一病氣になつた場合には、その注意を以下に書かう。

第一 熱を

……出したら

果實を

多くやつて食慾を刺戟させ、一

第二 胃痛

……吐きけ

これはこの頃では急性胃腸カタルからくるものが最も多い、この時には胃の中に残つてゐる刺戟物をすつかり出してしまふために指で咽喉を刺戟してすつかり吐いてしまふか、醫師に胃を

第三 下痢

……をしたら

洗つてもらふかするとよい。炭酸水或は薄荷水をのんでもよく吐くものだが、刺戟物が腹に届いてしまつたと思つたら、早くヒマシ油を二〇―三〇グラム位のものが一番である。胃痛があまり激しい時には胃部を温布するとか、コンニャクまたは懷爐で温めるとか、なほ一、二日間絶食するといふ。

根本園茶舗に

御茶の御用命は
平 四 丁目
電呼二一七番

平町町會議員當選御禮

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 川崎 | 内橋 | 高橋 | 堀橋 | 根上 | 石橋 | 馬橋 | 酒井 | 松崎 | 鈴木 | 吉田 | 佐藤 | 會澤 | 花澤 | 坂本 | 猪俣 | 多田 | 小野 |
| 崎 | 上 | 橋 | 橋 | 上 | 橋 | 橋 | 井 | 崎 | 木 | 田 | 田 | 川 | 澤 | 本 | 本 | 田 | 野 |
| 文 | 正 | 茂 | 喜 | 喜 | 治 | 武 | 長 | 崎 | 木 | 田 | 田 | 川 | 澤 | 本 | 本 | 田 | 野 |
| 治 | 一 | 松 | 品 | 品 | 三 | 之 | 太 | 太 | 光 | 金 | 龍 | 太 | 久 | 隆 | 觀 | 笑 | 伊 |
| 一 | 作 | 一 | 藏 | 藏 | 助 | 助 | 清 | 吉 | 若 | 若 | 若 | 郎 | 郎 | 郎 | 德 | 治 | 治 |

謹告
三丁目(元磐城銀行跡)に移轉仕候
福島縣農工銀行平支店

美給のサーピス
豊かな香味に
味覺は踊る
新感覺的なる
陶酔境
カフエー金龍
湯本座通り

山崎時計店商報

時計の保存手入れ法

- 長く動かさないで置くとき油が固り時間が不正確になり又動かなくなるから時々「ゼンマイ」を捲いて器械を動かすこと。
- 蓋を開けると細かい埃が入つて機械を傷け又蓋の隙間から水や汗が入つて機械を錆びさす恐があるから成るべく蓋を開けないこと。
- 水の中に落した時はすぐ蓋を開け「アルコール」に浸して水分を取り、更に油の中に入れて成るべく早く時計店で手入れをさせます。其の儘放つて置くと錆が出て使用出来なくなりす。
- 「ガラス」が壊れると破片が文字板を傷けたり、機械の中に入つて故障を起したりしますから早く入れ替へること。
- 機械はどんな立派なものでも掃除や注油を怠ると機械の精密部の磨損により時間が不正確になり耐久力に影響してきますから少くも一ケ年に一回は是非とも手入れすること。

最新型

- クロム鋼時計 四・〇〇より
- K8 金 側時計 一四・〇〇より
- 何れもスイス製石入りキカイ
- 御婦人用 寶石入 指輪 三・五〇以上
- 象牙タバコパイプ種々入荷しました 四拾錢より



山崎時計店

磐城平町五丁目
新川町通り電呼五五八

營業課目
時計及附屬品・眼鏡・双眼鏡・貴金屬指輪類・ライタータバコパイプ

これから汚れの目立つ あなたの洋服を

何時も仕立おろしの様にするには これだけの手當が必要

【平南町 齋藤洋服店主談】

其人の教養の程度や家庭の身分の中で、衣類に有害なのは主に「服装に依つてその一端が」にカブロン酸でありますから、うかがはれる」とよくいはいはれまこれはアンモニアの稀薄溶液です。

いつも仕立おろしのやうに、汚點や皺に注意して、たへず手入を施してある洋服を着る事は決しておしやれの意味にばかり見られませんが、寧ろそれはたしなみであり、他人に對する禮讓として、常にさうあるべきであります。

殊にこれからはすべてのよごれが目立つて來ます。その意味から今日は主として洋服の日常に於ける手入れ法を申上げて見ます。洋服を永く保たせる爲めに又型を崩さないやうにするにはたとへ常着でありましたも

一、アラツシかけ
第一に扱いた時に、必ずブラツシをかける事です。ブラツシは布目に従つてかけるのが普通ですが、毛並のある地質のときは、毛並なりに、又薄物や絲の寄り易い地質のもの、時はな、めにブラツシをかけます。かうして全体の塵埃を掃去りましたら、汚點の有無をしらべます。

二、汗の始末
次に汗であります。汗の成

【一】：肉汁、ベンジンを用ひ脂肪を溶解させます。汚點の痕跡が残りましたら白布を下敷にし海綿或は白布に温湯を浸して取り取り周囲をばかしてふき取ります。

【二】：血液乳汁茶汁、直に冷水で処理します。輪廓の痕を残りなきに、周囲をばかし吸取紙でよく吸取します。それでも消されぬ場合は、白布地は漂白液を作つて漂白します。有色地は礫砂の冷水でふき取ります。古くなつた血液は稀薄なアンモニア水で処理し、冷水でゆすぎます。

【三】：鐵錆黒インク、は稀薄な修酸の温湯液を作り、これを汗點の部分に塗りつけるか、汚點部をつまんでその中で振り付けます。次に湿布で溶媒を吸ひ取ります。

【四】：墨、飯粒、をもみつけるか又はグルテニンと米糠とを練つて塗りつけ、暫くして洗ひ落します。墨抜き洗ひ粉を用ひるも宜しいでせう。

【五】：ペンキワニス、テレビ油でふき取り、更にベンゼン又は揮發油で洗ひます。若し此の方法で落ち切れない時は、ニクロールヒドリンのアルコールで洗へば大抵落ちます。

【六】：黴、日光にかはかして後ブラツシで糸目に沿つて拂ひ去り、過マンガン酸加里を水でこいて(黴)よごれの部分に塗りつけ色が變れば、更に修酸液で洗へばきれいに取れます。その後よく水洗ひ致します。

【七】：アイロンかけ
又アイロンをかけて、常に皺や襷ぐれの無い様にして置きます。アイロンをかけたままには仕上げ臺か、毛布の上にブラツシをかけた服を置き、その上鏡布としてキヤロコを洗つて糊氣を落したものを載せて置き、霧を吹きかけてから、良く熱したアイロンをもつて濕氣がなくなるまで充分にかけます。然し婦人服の縞子地や、絹地には水氣を與へます。その部分が染みになりがちです。その部分を染みにアイロンをかけます。なほ洋服の袖には決して折目をつけない様にします。袖でアイロンをかけます時は、ごこにも折目を付けない様に氣をつけねばなりません。只男子服の袖のみは後の縫ひ目の所に折目をつけませんが、前側の部分は矢張り折目を

平町五丁目

釜屋商店

電話九番・九九番

平三丁目

なかや洋服店

電話二〇三番

平二丁目

大村屋旅館

大村一郎
電話一七五番

平田町

玉屋洋品店

電話六五六番

牛豚肉の御用命は

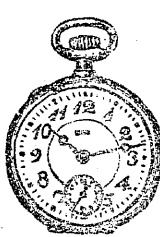
深谷牛豚肉店に

電話五二四番

平驛前通り

ダイヤ堂

親切 鈴木時計店



意外な好評を戴きつゝある

泉屋のパン いづみ最中

平五丁目

泉屋菓子店

電話六六八番

鈴木片濱自動車部

平電話二一七番

和泉屋旅館

平電話二一七番

東京石綿煙突販賣所
常磐セメント特約店
大谷石賣店
住吉屋分店

平驛前 酒井伴城商店

何卒御用命を
電話六六一番

漢方秘藥 發賣元
山野邊胃腸散

平町五丁目角

山野邊藥局

藥劑士 山野邊東次郎

處方調劑
藥品一般
體溫計各種
養蠶用寒暖計
農藥消毒藥品類
化粧品各種

平紺屋町

住吉屋本店

電話一五九番